

球技の楽しさに触れる授業づくり

— 戦術課題の解決を通して —

学籍番号 (199336)

氏 名 (七井良太)

主指導教員 (井上功一)

1. はじめに

保健体育科において、生涯にわたる豊かなスポーツライフの継続を目指す高等学校段階では、授業を通して生徒に運動の楽しさや喜びを味わわせることが重要である。高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省 2018）では、課題の把握とそれを解決していくなどの活動を行うことによって、運動の楽しさや喜びを深く味わうことにつながるとしている。実習校では、特に球技領域におけるゲームの場面で、課題を把握し作戦を立て実行している生徒を見つけることは難しかった。

井川ら（2019）は、「ここをこうすればもっと楽しくなる」という技術的・戦術的課題の発見につながることを重視した大単元による実践を行い、コンピテンシーベースの授業構造やKJ法やロジックツリーを活用した課題解決学習が、生徒に球技の特性や魅力を味わわせることに有効であることを示した。

サッカーは、攻守が入り交じることに加え足でのボール操作が要求されるため、ゲーム中の状況判断と行動選択の難易度が高く、一過性の楽しさを味わうにとどまりやすいとされる種目である。そこで、課題解決学習を用いた授業を行うことで、サッカーの楽しさを味わうことができ、豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育むことにつながると考えた。

2. 調査及び授業実践

本研究の目的は、「課題解決学習としての戦術的課題」を通じた、球技の楽しさに触れる授業づくりについて究明することとした。

球技領域におけるサッカーの単元づくりを、①戦術学習の立場からの単元の構成②活動と支援の2つの視点から具現化することで、生徒が球技の楽しさに触れることができると考えた。対象者は、大阪府Y高等学校2年生女子、165名である。

仮説の実証は、①戦術学習の立場からの単元の構成については、サッカーへの志向性の変化をアンケートで、戦術学習の深まりを学習カードの記述の変化でその有効性を調査した。②活動と支援については、動きの高まりをゲーム様相の変化と教師分析で、課題意識を学習カードの記述内容で調査した。

①戦術学習の立場からの単元の構成

戦術的立場から学習内容を分析・整理し、「どうすれば得点できるのか」、「どうすれば失

点を防げるか」を中心課題とすることで、戦術学習が深まるよう単元を構成した。

②活動と支援

戦術的課題見つけ解決することを意識してゲームの動きを高めていくことができるように、ゲームの設定や話し合いなどの活動とゲーム中のコーチングや話し合いへの助言などの支援を行った。具体的には、戦術的課題を意識しやすいよう守備側の動ける範囲を制限したゲームや個人やチームの課題を振り返る学習シートの活用、課題に応じた練習内容や作戦を考える話し合いを行った。

4. 結果及び考察

4.1 ①戦術学習の立場からの単元の構成

「サッカーをするのが好きか」に対して、事前アンケートでは43%、事後アンケートでは70%、「授業や授業以外でサッカーをしたいと思うか」に対して、事前アンケートでは22%、事後アンケートでは44%が「はい」と回答した。この結果から、サッカーに対する志向性が上昇したと考えられた。学習カードの記述は、単元初期ではボール操作に関する内容がほぼ全てであり、作戦など戦術的な内容が単元中期から出始め、単元後期では半数近く見られるようになった。このことから、単元初期では技術的課題へと向かっており、単元中期以降では戦術的課題に向かい始めたと考えられた。

以上のことから、戦術学習の立場からの単元の構成は、戦術学習を深める上で一定の有効性があると考えられた。一方で、全ての生徒において成果があったとは言えず、戦術的課題をさらに明確にした単元構成や他の単元と連携させた戦術学習などの必要性が課題となった。

4.2 ②活動と支援

授業を重ねパスをもらうために意図的にサイドへ広がるような動きが見られるようになり、ゲーム様相は団子状から縦長、サイドへの広がりへと系統的な発展が見られた。このことから、授業を通して生徒の動きが高まっていったと考えられた。学習カードの記述は、単元初期ではボール操作の内容がほぼ全てであり、戦術的な内容が単元中期から出始めた。このことから、生徒は課題意識をもち新たな視点を獲得していったと考えることができる。

以上のことから、本単元における活動と支援は、生徒が課題を発見し解決することを意識して動きを高めていくことに一定の有効性があると考えられた。一方で、全ての生徒において成果があったとは言えず、戦術課題をクローズアップしたゲームや戦術的な動きを促すコーチングなどの活動と支援の工夫の必要性が課題となった。

5. まとめ

本研究は「課題解決学習としての戦術的課題の解決」を通じた、球技の楽しさに触れる授業づくりについて究明することであった。実践の結果サッカーに対する志向性の上昇や戦術的な視点の獲得に一定の有効性が確認され、球技の楽しさにつながることを示唆された。さらに成果を上げるには、単元と単元の連携や活動と支援の工夫をしていくことが必要であると考えられた。